

ブラジル金融政策（2024年3月）

次々回からの利下げ幅縮小を示唆

2024年3月21日

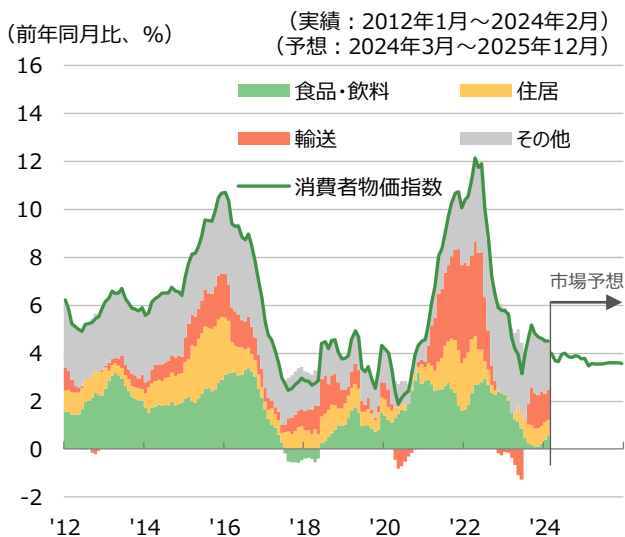
昨年8月から6会合連続となる0.5%ポイントの利下げを決定

ブラジル中央銀行は3月19～20日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を11.25%から10.75%に引き下げることを決定しました。6会合連続となる0.5%ポイントの利下げです。

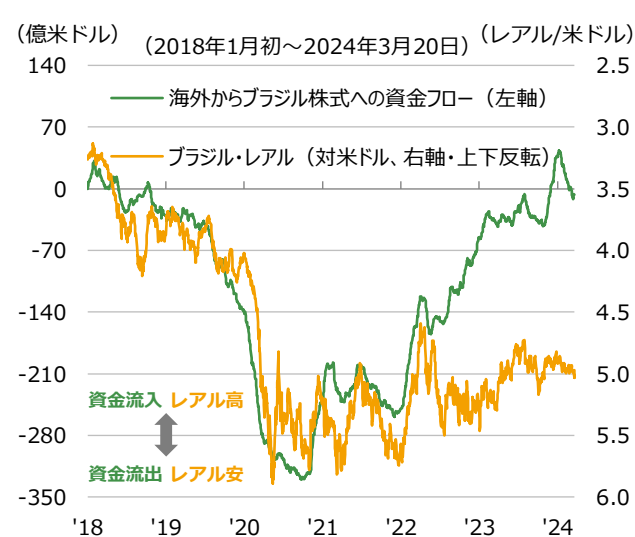
今回は声明文の内容に有意な変化がありました。前回までは同じ幅の利下げを想定する機会を「今後複数の会合（next meetings）」と記していましたが、今回は「次回の会合（next meeting）」としています。これは次回5月会合まで0.5%ポイントの利下げを続けるものの、その次の6月会合では利下げ幅の縮小を検討することを示唆します。同行はこの文言変更の理由として「不確実性の高まり」と「金融政策の実施における柔軟性の確保」を挙げており、背景には、インフレ率が目標レンジ中心の3%に回帰する展開が見通せないことや、政治的要因などから足元で通貨安圧力が強まっていることなどがあるようです。

インフレ率の内訳を見ると、昨年の豊作によるディスインフレ圧力の一巡とエルニーニョの影響で「食品・飲料」の伸びが加速しています。さらに、ガソリン価格に左右されやすい「輸送」や、電気料金に左右されやすい「住居」は伸びが鈍化する余地があまりなく、景気回復でサービス価格の伸びも高止まりしやすいため、インフレ率が3%まで鈍化する道筋が見えない状況です。また、ルラ大統領の株式市場を軽視する言動や米国の利下げ後ずれ観測などにより、海外投資家がブラジル株式市場から資金を引き上げる傾向が続いているため、利下げ幅の縮小によって通貨安圧力を緩和する狙いもあると考えられます。

ブラジルの消費者物価指数



ブラジル株式市場への資金フローと為替



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。